



日本遺産

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間

～北前船寄港地・船主集落～

北前船が栄えた時代、直江津は「今町」と呼ばれ、高田藩の外港である今町の港には北前船が寄港しました。さらに鉄道が開通すると、直江津は海陸の要所として大いににぎわいました。

詳しくは



北前船船主たちの航海安全祈願と感謝の象徴

多くの富をもたらす北前船は船乗りたちにとって夢のある航海でしたが、現代ほど航海技術が高くなかったため、日本海の荒波を越えていく船路はとても危険なものでした。そこで、北前船の船主や船頭たちは、航海の安全を祈願し、あるいは航海の無事を感謝して、寺社に船絵馬や船模型を奉納しました。それらは上越市内の寺社でも、北前船で栄えたまちの歴史を伝えるものとして、現在も大切に守り伝えられています。



▲船絵馬 福栄丸 (八坂神社)



◀左/船絵馬 久徳丸(住吉神社)、右/船絵馬 清寿丸・大乗丸 (日野宮神社)

船絵馬には、奉納者や奉納年、船主の名前などが書いてあるものもあります。

郷津の入り江と伊藤家

郷津は、国府津がなまった地名で、中世の頃までは越後国府の湊として機能していたと考えられています。虫生岩戸村に小高い丘陵があるために、郷津の入り江は今町湊で強い西風が吹いていても比較的風が穏やかで波が静かなことが多く、強風のときなどに風除けをするのに適した場所でした。冬期間は荒天によって船の運行が難しくなるため、船を陸揚げして冬を越していたようです。郷津を見下ろす神社には、現在の糸魚川市(旧能生町)鬼舞で廻船業を営んでいた伊藤家が奉納した船模型が掲げられています。



▲伊藤家が奉納したとされる船模型(剣神社・諏訪神社・飯縄神社合殿)

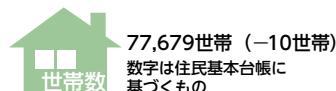
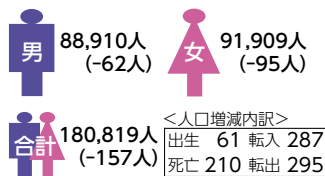
広報対話課から

(☎025-526-5111)

「広報上越12月号」は、11月21日(☎)・22日(☎)に各町内会へお届けし、各世帯にお配りします。届かない世帯の人は、広報対話課または、各総合事務所へご連絡ください。

上越市の人口・世帯数

令和6.10.1現在。( )は前月との比較



表紙のことは：上越市創造行政研究所のおしごと

「研究所」と聞くと、屋内で黙々とデスクワークをするイメージが強いかもしれませんが、実際は地域に出向いて、住民の皆さんと交流しながらまちづくりをサポートするのも上創研の大切な役割です。

まちづくりに興味のある皆さん、ぜひ12月5日(☎)のシンポジウムにお越しください。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。